〝あの日〟を語り継ぐ

長崎市の空で原子爆弾が炸裂し、甚大な被害が生じてから七十七年の時が流れました。「あの日」は黒い雨が降り、翌日から長崎市内は連日厳しい夏の日差しが照り続けたと言われます。その中での生存者の捜索や御遺体の弔い、傷病者の手当てなど、さぞ大変だったのではと想像します。

本日、本校でも被爆を経験した長崎県の学校として平和集会を開き、平和への祈りをささげました。この日を登校日として平和学習をするのは長崎県だけですので、意義を心に刻みながら行いました。

原爆の恐ろしさ、絶対に使ってはいけないこと、その恐怖心を利用するやり方を越える力や考え方を見出すこと、平和を実現するために自分ができることを見つけることなどを自分自身に問いかけて、後世に語り継がなければなりません。

八月九日―、様々な国際紛争や凶悪な事件だけでなく、身近に起きる喧嘩やいじめ、争いごとなどを無くすことを考え、平和を考える一日にしたいと思います。

「自分から」を鍛えよう

「主体的に」は、これからの社会を生き抜くためのキーワードの一つですが、これを実行するのはなかなか難しいものですね。特にこの夏休みというものは…、ふう～。

以前、読んだ雑誌に**「子どものやる気を生み出す生活習慣」**というものがあって、その一つに次のことが書かれていました。

〈親がいつも子どものよいところを探している〉

・親（家族）が子どもの話をよく聞き、失敗を責めず、子どもの趣味や得意なものを応援している。

『やる気を生み出す生活習慣／Ｆａｍｉｌｙから』

三日坊主でもいいから、次のことを夏休み中に**「自分から」**ができたら「いいね！」を押してあげてください。

・朝起きるのも寝るのも**自分から**。
・勉強も手伝いもあいさつも**自分から**。
・ゲームやテレビ、インターネットをやめるのも**自分から**。

「三日坊主も一〇回続けたら一ヶ月！」

こんな言葉もどこかで聞いたような…。

夏休みも残り約三週間です。明るく元気に過ごしてほしいと願う登校日でした。

《コラム　港町ブルース》

負けても失わないもの

終戦の頃の日本人を語るエピソードがありましたので紹介します。

米ハワイ州知事をつとめたジョージ・アリヨシ氏が、廃虚の東京（昭和二十年）で出会った少年のエピソードです。靴磨きを頼んだ少年の一生懸命さに感心し、パンにバターとジャムをいっぱい塗って「これを君にあげるよ」と手渡したところ、腹ぺこなはずのその少年は、そのまま風呂敷にパンを包みました。「なぜ食べないの」と聞くと「家に三つの妹が待っていますから」と答えたとのこと。わんぱく盛りの男の子がひもじさを我慢して妹のためにパンを持ち帰ろうとする姿を見て「物としての日本は壊れたが、日本人の心は失われていない。必ずや、日本民族はよみがえる」と彼は確信しました。

この少年の優しさや気概もまた、後世に必ず受け継ぎたいことの一つです。

《　主な行事予定　》

〈８月〉

９日（火）県民祈りの日、平和集会
１０日（水）学校閉庁日　～１５日
１９日（金）全校登校日
　　夏休みの宿題提出日
　　（家庭科の宿題を除く全部）
２３日（火）３年生授業日　～２６日
　　この間、実力テストあり
　　（２３～２４日）
２７日（土）数学検定（希望者）

〈９月〉

１日（木）始業式（給食あり）、
　　学級委員任命式
　　課題・実力テスト　～２日
５日（月）自転車点検
１４日（水）教育相談　～２７日

《心に響いた言葉》「子供の体調不良のことで悩んでいましたが、先生方に相談してよかったと思います。スクールカウンセラーの先生や病院のことをいろいろ教えてくださりありがとうございます。」学校評価へ寄せられた言葉から　これからもがんばります！

シリーズ「令和の日本型教育を行う口中へ」

〈第三回〉

生徒個々の力をそれぞれ十分に伸ばす授業への転換

（生徒の視点から）

今回は〝授業の転換〟というテーマの二回目になります。前回は授業の改革で「学びのベクトルを一八〇度変える」という内容のことを書きました。今回は生徒の**「将来の夢や希望等」と「教科授業」との関連**という内容になります。（今時の言葉で言えば「マッチング」というところです。）

〈めざす授業の方向性〉

生徒個々のキャリア形成（夢や目標）に基づく学びを積み重ねる授業へ

さて、このような授業とは、どういうものかというと…。それは特段、授業内容が特別なものになるというのではなく、意識の持ち方（教師にとっては〝持たせ方〟）が大事ということになります。

たとえば英語の勉強が嫌いでも、外交官やグローバルな企業では必須ですし、プロスポーツの選手も最近はペラペラ（堪能）です。農業に従事しているかつての教え子も「英語が話せるようになりたい」と言っていました。好きとか嫌いではなく、将来**「必要」**または**「あれば可能性が広がる」**という認識を持つことが（持たせることが）できるかどうかというところです。

〈具体的な取組〉

本校では、まずは個々の生徒の夢や目標（業界用語では「キャリア形成の方向性」と言います）を知るために**「キャリア・マネジメントシート」**に記入させています。（今回、通知表に挟み込んでお配りしたものです。）ここに書いてあることが実現するよう進路指導の時間だけじゃなく、教科授業も改めてその価値や意義を見直し、生徒自身の未来の夢や目標等と関連づけて進めていくことが求められています。

では、**「キャリア形成に基づく学びを積み重ねる授業」**ってどんな授業かというと…。以下に具体例を二つ挙げてみました。

例１：推理小説家になりたい生徒に「今日の数学は、君の未来に必要だ」と言って方程式の「X」を容疑者、「Y」を起きた事件として授業を進める。

例２：社会科の『社会福祉』を学ぶ授業で、「よし、今日は公務員になりたいA君と保育士になりたいCさん、建築家志望のE君、人の役に立つロボットを開発したいG君でグループディスカッションをしてみよう！」

このような感じで**「今の学びが未来につながる」**そのような授業を目指しています。

ふるさとの文化・歴史・人物 ―― 口之津中教育の視点から

「口之津港ターミナル」

二〇二〇年に開設された口之津港ターミナルを紹介する「島原半島情報WEBサイト」を見ると、このターミナルは**『みなとオアシス』**というものに登録されているとありました。

「みなとオアシス」とは、地域住民の交流や観光の振興を通じた地域の活性化に資する「みなと」を核としたまちづくりを促進するため、住民参加による地域振興の取り組みが継続的に行われる施設として、国土交通省港湾局長が登録したものをいいます。

国土交通省HPから

ターミナルは、その中に、支所や売店、食事処、観光案内のほか、誰でも弾けるピアノが置いてあるなど、ほんとうに魅力的な場所になっています。先日はマリンフェスタもあって、本校の生徒も参加しましたので、微力ながら「まちづくり」に貢献できたかなと思っています。

吹奏楽部出演の様子

【お知らせ】

熱中症に御注意を！

今年の夏は熱中症による病院搬送の件数が四〇〇件を越える日があったとのこと。お子さんに水分や塩分を取らせることはもとより、保護者の方々もどうぞ御自愛ください。

《今日は何の日》８月９日…長崎原爆の日、８月１３日…ナイチンゲール逝く、８月１５日…終戦記念日、８月１８日…豊臣秀吉逝く
８月２２日…空海帰国、８月２５日…鉄砲伝来、８月２８日…気象予報士の日、８月３０日…マッカーサー降り立つ